



障害のある若者の雇用に関する 日米企業リーダー育成研修

ウェビナーシリーズ

イノベーションとインクルージョンコロナ禍で、障害を持つ若者が働くこと
3つのケーススタディ

ウェビナー#5

(日本時間) 2021年12月10日午前9時～午前10時00分
(米国東部標準時間) 2021年12月9日午後7時～午後8時00分

今回のウェビナーでは、障害を持つ若者のコロナ禍における雇用改善に向けたプロジェクトを対象とした、日米企業リーダー育成研修の少額助成金プログラムの受給対象者に選ばれた日本の事業者が、実施結果を報告します。少額助成金は、障害を持つ若者自身がプロジェクトの設計や実施に関わることを条件に、プロジェクトのシードマネーとして支給されました。厳正な選考を経て選ばれたCollable、Through Flowers/キッズブーケプロジェクト、未来ワークの3事業者は、3ヶ月から半年にわたり、障害を持つ若者に就労体験の機会を提供したり、「働くこと」への具体的なイメージを持ち積極的な意欲を育むための手法や戦略を試してきました。プロジェクトの設計・実施で見えてきた、成功点、改善点、経験から学んだ点について、現場からの声をお聞きください。

日米の障害を持つ若者の雇用機会を広げることに焦点を当てた5回シリーズのウェビナーも、今回が最終回となります。このウェビナーシリーズは、マサチューセッツ大学ボストン校のICI、地域インクルージョン研究所と、在日米国商工会議所のパートナーシップ、そして(東京の)アメリカ大使館の助成によって実現したプロジェクトです。この第5回ウェビナーにつきましては、大妻女子大学共生社会文化研究所とのパートナーシップによりお届けしております。

お問い合わせ先:

Heike Boeltzig-Brown, PhD
プロジェクト・ディレクター
Heike.Boeltzig@umb.edu

楠本沙織
プロジェクト・コーディネーター
Saori.Kusumoto@umb.edu

情報保障:日英同時通訳、日
英文字通訳、日本手話、アメ
リカ手話

事前登録制・参加費無料

事前登録: <https://tinyurl.com/4ebkmn5z>

The project is funded by the U.S. Embassy Tokyo.



Institute for Community Inclusion at UMass Boston



Otsuma Women's University
Institute of Inclusive Society and Culture

司会

大妻女子大学副学長/人間関係学部教授

共生社会文化研究所長

小川 浩

障害児教育の修士課程修了。神奈川県総合リハビリテーションセンターの知的障害者入所施設で生活支援員、また同センターの職業前指導科で職業指導員を経験する。神奈川リハンター在職中の1992年に中央競馬社会福祉財団の研修生として米国でジョブコーチの実践を学ぶ。ジョブコーチ実践を始めるため、1998年に社会福祉法人横浜やまびこの里に転職。作業所において知的障害と自閉症のある人にジョブコーチ支援を行いながら、そのノウハウを普及するためにジョブコーチセミナーを開始。2002年より大妻女子大学の教員となり、全国でジョブコーチ養成研修を展開するためNPO法人ジョブコーチ・ネットワークを設立。現在、大学とNPOで就労支援の人材養成を行う。現在、大妻女子大学副学長、人間関係学部教授、共生社会文化研究所長。NPO法人ジョブコーチ・ネットワーク理事長。



パネリスト

特定非営利活動法人Collable 代表理事

山田小百合

Collableは、東京を拠点とする特定非営利活動法人であり、インクルーシブデザインワークショップの普及を主に展開してきた。2020年から障害のある学生のキャリア学習事業を開始し、動画・音声コンテンツの配信や職場見学プログラム、インターンシップなどを通して、さまざまな障害のある学生がキャリアの選択肢や仕事内容について理解を深めるための支援を行う。「誰もが社会の当事者になる」というビジョンを掲げ、障害者の「ために」という一方向の関係性から、障害がある人もない人も「ともに」協力しあえる場作り、環境作りを行っている。ミニ助成金の使途としては、障害のある大学生が、自分のキャリアを描きながら、就職活動に向き合い、将来を考えるための機会となる、オンラインで参加で



Collable

きるインターンシッププログラムの設計と実施を企画。

一般社団法人キッズブーケプロジェクト 学生運営スタッフ 安部 遥(あべ はるか)

キッズブーケプロジェクトは、東京を拠点にスポーツイベントなどにブーケやアレンジメントを提供する一般社団法人である。また、年齢や障害の有無を問わず、子どもたちがスポーツや文化芸術と出会う機会を提供している。生け花や造花アレンジメントなどの機会も、文化芸術活動の一環として提供する。ミニ助成金の使途としては、東京都港区立港南中学校の特別支援学級の生徒たちに、実際に働く経験を通して自分に合った仕事を見つけ、就労ビジョンや将来の目標をより明確にしてもらうことを目的とし、「自分に合った仕事を見つける～私らしい仕事発見プロジェクト～」を展開。地域事業者であり、東京アビリンピック競技委員

Through Flowerや、労働者派遣事業などを展開する株式会社丹青ヒューマネットと協力し、障害を持つ若者の雇用について理解を深め、職場のアクセシビリティ向上、インクルーシブ化など、職場環境の改善について、事業者の理解を深めてもらうことも目的



株式会社ミライワーク 代表取締役

前田裕生

広島県に拠点を置く株式会社ミライワークは、2020年に創業した障害福祉サービス事業者であり、さまざまな障害を持つ人に対して、自立訓練を提供する。ミニ助成金の使途としては、精神障害を原因としたひきこもりの若者の就労支援を行う。なかでも本プロジェクトでは、ひきこもりから脱却したい意志が芽生え、すでに支援機関との関わりを持っている若者を主な対象とする。ミライワークが支援機関と共同し、オンライン企業見学、従業員との面談、就職活動など、就労に関するサービスをひきこもりの若者に提供される一般的なサービスや支援に組み込む。ひきこもりの若者と事業者をつなぐことで、若者が就労を「実現可能な選択肢」と捉え、就職希

をを目指す。



あなたと働く、
未来をつくる

ミライワーク

